

『可愛いミニ盆栽を作しましょう！』

情景盆栽作家 中尾浩之先生

“インテリア盆栽”を日本中に！ ～三代目の挑戦～

盆栽・・・庭の角か床の間に鎮座する、古典的な雰囲気イメージする人も多いかと思います。「盆栽のイメージを一新させたいです。リビングにも、マンションのエントランスにも、どこにあっても、洗練されたインテリアとしての盆栽。身近にあって美しい”インテリア盆栽”を、ひとつのジャンルとして確立させたいです。」向けたカメラに照れながらも、盆栽に関しては一歩も引かない言葉が返ってくる中尾先生。夢をお尋ねすると、即答「インテリア盆栽を日本中に広め、楽しんでもらうことです！」

中尾先生は花店の三代目。初代の”おじいちゃん”は「大の盆栽好き」が高じて花店を開かれたとか。巡り合せか遺伝子か、10年あまり前『新たなインテリア盆栽を切り開こう！』と、決心。新しい感性をもって、様々な角度から取組む研究の日々。盆栽の持つ最大の魅力、『繊細な美しいライン』を極めるべくポイントを模索。元々、いけ花とフラワーアレンジメントの講師である、その経験と技術が、今日に至る過程でとても役に立ったそう。

3年前には工房を立ち上げ、生徒数は「中日文化センター」合わせて100人。その材料選びも、大阪まで足を運び、1本1本を全て自分で確かめて買い付けする頑固な拘り。講座の木は、本当にツヤツヤとして生命力溢れています。



『可愛いミニ盆栽を作しましょう』講座の、ある一日をご紹介します。その日は 愛らしい桜の白い鉢植え。元気な枝ぶりの木を、皆さん楽しそうにスコップで土を加減したり、植えつけの角度を悩んだり。先生は1人ひとりに丁寧に目を配り、「おお～、いいですね。」「それもおもしろいですね！」と、常に声を掛けアドバイス。和気あいあいとした中、仕上げに緑深い苔をほっこり乗せて、それぞれの小さな風景が出来上がりました。技法をしっかり指導した上で、生徒さんの個性と、頑張った作品を尊重されます。受講の生徒さんが「今日も楽しかった！」 そう思って頂くことを、とても大切にされています。木にも人にもやさしい先生の心掛けです。

講座では、おもに樹齢4年・5年の元気な苗木を使います。針金を掛け、型を作っていく過程も楽しんで下さい。やがて数か月後、数年後、どんな姿に成長して、どんな風景や世界をみせてくれるのでしょうか。楽しみが広がります。